

金沢大学大学院教職実践研究科教職実践高度化専攻

認証評価結果

金沢大学教職大学院の評価ポイント

- ・「省察シート」や「Web 実習ノート」の活用は、学生が授業や実習で得た経験を振り返り、教員との対話を通じて学びを深めるための重要な手段として機能している。これらのツールは、実習後にも学びを活かし続ける仕組みとして設計されている。学生の成長を支えるために、丁寧な指導に関わる実務家教員の関与も大きな効果を上げている。また、これらの取り組みを通じて、理論と実践の往還が促進されている点が評価できる。
- ・基調講義、グループワークの実施などの一定の授業を全体で揃える工夫が行われており、全体的な教育の質の向上につながっている。これにより、学生は共通の学びを基盤として、各自の専門性を深化させる機会を得ている。
- ・高度化科目における「共生教育領域」では、多様性の理解や共生社会の実現に向けた教育を支援するための内容が組み込まれ、石川県内の教育課題にも対応している点について評価できる。
- ・石川県総合教育センターが実施する「若手教員早期育成プログラム」や「金大連携サポート」事業において、教職大学院が関わっており、現場のニーズに対応した研修を支援している。
- ・令和6年能登半島地震からの復旧・復興に向けて、大学全体のプランに関わりながら、教職大学院として研究を進めたり、修了生同士の交流においてもテーマに取り入れたりするなど独自の工夫も見られ、その対応の早さや工夫が高く評価できる。
- ・学校教育学類の共同教員養成課程設置に伴う富山大学との交流によるFDや学習会、あるいは授業内で計画をしている他大学との交流は、教育の質の向上や学生の学びの広がりにつながる可能性があり、今後のさらなる発展が期待される。

令和7年3月

一般財団法人教員養成評価機構

I 認証評価結果

金沢大学教職大学院（教職実践研究科教職実践高度化専攻）は、教員養成評価機構の教職大学院評価基準に適合していると認定する。

認定の期間は、令和12年3月31日までとする。

II 基準ごとの概評

基準領域1 学生の受入れ

基準1-1

○ アドミッション・ポリシーに沿い、入学者数の確保に努めるとともに、公平性、平等性、開放性を確保した学生の受入れを行っていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

アドミッション・ポリシーに基づき、公平性、平等性、開放性を重視した入学者選抜が実施されている。学生募集においては、各地域や教育現場のニーズを反映した教育課程が設定され、社会人や現職教員を含む多様な層の受け入れが可能な仕組みが整備されている。選抜過程では、適性試験（口述試験含む）を通じて公正な評価が行われ、透明性が確保されている点が評価できる。

また、入学者数の確保に向けては、広報活動の強化や説明会の開催、地域の教育委員会や学校との連携が図られ、安定的な学生募集に貢献している。特に、入学者数が定員を下回る場合には、原因分析と改善策の検討が行われ、是正に向けた具体的な取り組みが進められている。

今後、学部学生への入学への働きかけがより一層進むことが期待される。

基準領域2 教育の課程と方法

基準2-1

○ 教職大学院の制度並びに各教職大学院の目的に照らして、カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教育課程は、教職大学院の目的とカリキュラム・ポリシーに基づいて体系的に編成されており、基盤科目、高度化科目、実習科目、総合科目の各要素が密接に関連付けられている。

特に、高度化科目の「探究教育領域」では、理論的な基盤に基づく教育課題の分析や解決策の提案が重視されており、学生が教育現場での問題解決能力を高めるための科目が設置されている。また、「共生教育領域」では、多様性の理解や共生社会の実現に向けた教育を支援するための内容が組み込まれ、石川県内の教育課題にも対応している点について評価できる。

基準2-2

○ 教職大学院の制度並びに各教職大学院の目的に照らして、ふさわしい授業内容、授業方法・形態になっていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

授業内容、授業方法・形態は、教職大学院の目的に適合する形で設計され、学生の実務経験や学修履歴を考慮して柔軟に提供されている。基調講義、グループワークの実施などの一定の授業を全体で揃える工夫が行われており、全体的な教育の質の向上につながっている。特に、「省察シート」を活用した授業設計が注目され、学生の学びを深め、授業改善に結びつける重要なツールとして機能している。省察シートは、学生の授業体験を振り返るだけでなく、教員間での共有やカリキュラム改善のためのデータとしても活用されている。

さらに、授業内容は現場の教育課題に即しており、学校等での実態を反映した実践的な学びが提供されている。授業内で計画をしていた他大学との交流については、学生の学びの広がりにもつながる可能性があるため、今後実施され、発展していくことを期待したい。

基準2-3

○ 教職大学院にふさわしい実習になっていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

実習は、学生の学修目標に沿った体系的な設計のもとで実施され、適切な実習環境が整えられている。特に、「Web 実習ノート」を活用した実習記録と振り返りが促進され、学生の学びが実践力の向上につながっている点が評価できる。このノートは、学生の実習中の経験を整理し、自己省察を深めるための有効なツールとして機能している。

また、学生が希望する学校種や研究テーマに基づき適切な実習校が確保されており、大学教員による巡回指導と実習後の振り返りが効果的に行われている。前回指摘にあった現職教員学生の負担軽減への仕組みやルールの設定が機能しつつある。

今後、実習校との連携において、実習校の要望を大学側が汲み取るような連携調整がさらに充実することを期待したい。

基準 2-4

○ 成績評価・単位認定、修了認定が教職大学院の教育の在り方に照らして適切であること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

成績評価、単位認定、修了認定は、教職大学院の教育理念や目的に即し、適切かつ透明性の高い方法で実施されている。成績評価では、事前に学生へ評価基準が明確に提示され、科目ごとに異なる評価方法や基準の妥当性が検証されている。また、教員間で評価基準の統一を図るための協議が定期的に行われており、学生が自己の学習成果を客観的に把握しやすい仕組みが構築されている。

特に、学校実習においては、大学教員と実習校の教員が共同で評価を行う仕組みが整備されている。

基準領域 3 学習成果

基準 3-1

○ 各教職大学院の目的及びディプロマ・ポリシーに沿って、学習成果があがっていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

学習成果はディプロマ・ポリシーに基づき、「省察シート」や「Web 実習ノート」を活用した学修状況の把握を通じて適切に測定されている。特に、「授業改善のための学生アンケート」や「学習成果アンケート」の結果が教務・FD 委員会で共有され、授業内容や方法の改善につながっている点が評価できる。

さらに、学部卒学生と現職教員学生を混合したグループワークの実施や、実践的な教育課題に基づく学びを通じ、教育現場での実践力の向上が見られる。

基準 3-2

○ 修了生の学習成果の把握に努めていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

修了生の学習成果は、修了後の短期的および中長期的な観点から適切に把握されている。具体的には、修了生本人およびその勤務先である学校や教育委員会からの意見聴取を通じて、学習成果や課題の状況を把握している。また、これらのデータは教育課程の改善に活用され、修了生の活躍状況が教育活動全般に反映されている点が評価できる。

さらに、修了後のフォローアップ体制も整備されており、修了生向けの研修会や研究発表の場が提供されている。具体的には、「フォローアップの日」を設け、最近では震災への対応をテーマに取り入れるなどの工夫を図りつつ、修了生の交流を進めている。これにより、修了生の継続的な専門性の向上を支援し、学びの成果が社会的に還元される仕組みが構築されている。

基準領域 4 教育委員会等との連携

基準 4-1

○ 教育委員会等との連携が機能していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

主として石川県教育委員会との連携が機能しており、地域の教育課題の解決に向けた具体的な取り

組みが行われている。特に、教育委員会との協定に基づく研修プログラムである「若手教員早期育成プログラム」と「金大連携サポート」事業の実施が積極的に展開されている。さらに、地域教育委員会や学校現場のニーズを踏まえた教育課程の改善や、研修内容のフィードバックが行われている点が評価できる。

一方、各市町教育委員会との直接的な協力体制については、自己評価書や訪問調査結果からは十分に把握できない点が見受けられた。今後は、各市町教育委員会との直接的な連携をさらに強化することを検討することで、教育委員会にとってはより効果的で充実した研修の実現が期待される。また、教職大学院にとっても、その連携を通じて新たなメリットを得られる可能性があると考えられる。

基準領域5 学生支援と教育研究環境

基準5-1

○ 履修指導並びに学修支援を適切に行っていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

学生の学修履歴や実務経験に応じた柔軟な履修指導が行われている。特に、現職教員学生や社会人学生に対しては、個別のニーズに応じたカリキュラム調整が行われ、学修の効率化が図られている。

また、修了生に対しても継続的な学修支援が提供され、修了後の現場での課題解決能力の向上に寄与している。特に、地域教育委員会や教育現場との連携を活用し、修了生向けのフォローアップ研修やセミナーが定期的実施されている。これらの取り組みは、学生が教育実践において求められるスキルを習得し、修了後もキャリアを支えるための重要な役割を果たしている。

基準5-2

○ 生活支援、キャリア支援、経済支援の取組、並びに学生に対するハラスメント、メンタル・ヘルス等に対応する措置が適切であること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

学生に対する生活支援、キャリア支援、経済支援の取り組みが多角的に展開されている。特に、ハラスメント防止やメンタル・ヘルスケアにおいては専門窓口が設置され、相談体制が整備されている。また、経済的支援として、授業料減免や奨学金制度が用意されており、社会人学生や現職教員学生も対象に含めた支援が行われている点が評価できる。キャリア支援においては、修了生ネットワークや教育委員会との連携を活用し、実践的な研修や相談会が実施されている。これらの取り組みにより、学生が安心して学修に取り組める環境が整えられている。

基準5-3

○ 施設・設備並びに図書、学術雑誌、電磁的方法により提供される学術情報資料を、有効に活用していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教育研究活動を支えるために充実した施設・設備を有効に活用している。特に、講義室や演習室などの基本的な設備に加え、LMS やコミュニケーション支援ツール、オンラインストレージによる ICT 環境が整備されており、オンラインでの学修を進めることを可能にしている。これらの取り組みが、令和6年能登半島地震においても有効に機能した。以上から、研究活動に必要な情報を適切に取得できる環境が整えられているといえる。

基準領域6 教育研究実施組織

基準6-1

○ 教育研究上の目的を達成するための組織が機能していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教職実践研究科会議を毎月1回開催し、専任教員が参加をしたうえで、各種事項について審議をしている。また、教育研究活動を支えるために、教務・FD委員会が隔週で開催され、重要事項を事前

に検討し、教職実践研究科会議で審議される仕組みが整っている。さらに、研究者教員と実務家教員がペアで指導を行い、理論と実践の往還を実現する体制が機能している。

基準 6-2

○ 教育研究上の目的を達成するために、組織的に研究する環境を備え、またFDに取り組んでいること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教育研究上の目的を達成するため、教職大学院と学校教育学類が一体となった研究や附属学校園との協働研究が進められている。また、「令和6年能登半島地震金沢大学合同調査チーム KUD — Kanazawa University Disaster investigation team —」のもとで、「金沢大学復興アクションプラン」に関わり、令和6年能登半島地震からの復旧・復興に向けて、教職大学院として探究教育と共生教育にかかる研究に着手している点が評価できる。

教職大学院独自のFD活動も計画的に実施されており、令和5年度には7回のFD研修会が開催された。これらの活動は探求教育領域および共生教育領域に関連する研究を基盤に、教育の質向上を目指した取り組みとして評価できる。

加えて、富山大学教職大学院との相互授業研修会による取り組みは、教育の質の向上や学生の学びの広がりにつながる可能性があるため、今後のさらなる発展が期待される。

基準領域 7 点検評価と情報公表

基準 7-1

○ 教職大学院の教職課程の自己点検・評価を定期的、組織的に行っていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教職課程の自己点検・評価は、大学全体、外部評価、内部の点検・評価委員会の3つのレベルで定期的かつ組織的に実施している。大学全体および部局レベルでは、中期計画・目標に基づく評価が行われ、外部評価としては石川県教育委員会や校長会、企業体等からの意見や助言を受けている。また、教職大学院内部では点検・評価委員会が中心となり、学生による授業評価の結果を反映し、教育課程の有効性を検証し改善を進めている。在学中および修了時の学生意見聴取も実施し、多面的な評価体制を構築している。

基準 7-2

○ 教職大学院の教育研究活動等の状況並びに成果を、広く社会に公表するため、積極的に発信していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

ウェブサイト、広報誌「角間の窓」、パンフレットなどを通じて教職大学院の概要や特色を公表している。教育研究活動については「実践研究報告書」を作成し、関係機関に配布するとともにウェブサイトで公開している。さらに、石川県教育委員会や市町教育委員会などの関係者を招いた「教職大学院研究フォーラム」の開催や、オンラインを活用した発信を行い、コロナ禍においても積極的に情報発信を実施してきている。

Ⅲ 評価結果についての説明

金沢大学から令和5年11月27日付け文書にて申請のあった教職大学院(教職実践研究科教職実践高度化専攻)の認証評価について、その結果をⅠ～Ⅱのとおり報告します。

教員養成評価機構では、「教職大学院等の認証評価に関する規程(平成21年10月20日理事会決定)」に基づき「認証評価実施要項」、「自己評価書作成要領」、「訪問調査実施要領」等により金沢大学が実施した自己評価を前提に書面調査及び訪問調査を行い、評価結果を作成しました。

評価は、機構の評価委員会の下にある評価専門部会の評価員6名が担当しました。評価員は、教職大学院等を有する大学の関係者、有識者で構成されています。評価にあたっては、教職大学院評価基準(平成21年10月20日決定)に基づき実施しました。

書面調査は、令和6年6月末に提出のあった「教職大学院認証評価自己評価書」、「基礎データ：1 現況票、2 専任教員個別表、3 専任教員の教育・研究業績、4 シラバス」及び「添付資料一覧：資料1 金沢大学教職大学院ウェブページ（募集要項）ほか全100点、訪問調査時追加資料：資料110 年度ごとの現職教員学生の校種の推移ほか全17点」をもとに調査・分析しました。

「教職大学院認証評価自己評価書」における「Ⅶ 基準ごとの自己評価」の調査・分析については、「Ⅵ 前回評価の指摘事項の対応状況」及び「Ⅷ 法令要件事項の確認」の記載内容を踏まえています。

各評価員による調査・分析の結果は、主査（金沢大学教職大学院認証評価担当）に集められ、評価専門部会（評価チーム会議）の検討を経て整理し、令和6年9月30日、金沢大学に対し、訪問調査時における確認事項と追加提出書類・閲覧書類に関する連絡をしました。

訪問調査は、「現地訪問視察」と「ウェブによる面談」に分け、令和6年10月15日に現地訪問視察を、令和6年11月14日にウェブによる面談を金沢大学教職大学院（教職実践研究科教職実践高度化専攻）に対して実施しました。

現地訪問視察では、教職大学院関係者（責任者）及び教員との面談（1時間30分）、学生との面談（1時間）、連携協力校の視察・同校校長及び教員等関係者との面談（1校1時間）、学習環境の状況調査（30分）、関連資料の閲覧を実施しました。

ウェブによる面談では、教育委員会等関係者との面談（45分）、連携協力校校長及び教員等関係者との面談（45分）、授業等教育現場視察（1科目1時間）、修了生との面談（45分）、教職大学院関係者及び教員との面談（15分）を実施しました。

書面調査と訪問調査に基づき、各評価員から主査に調査・分析結果の最終報告が集められ、主査及び副査が評価結果を取りまとめた後、評価員全員で確認し、令和6年12月25日開催の評価専門部会において審議し「評価結果原案」としました。

「評価結果原案」は、令和7年1月23日開催の第2回評価委員会に諮り審議し、「評価結果案」としました。「評価結果案」を、金沢大学に示し、意見申立の手続きを経たのち、第3回評価委員会を行い、令和7年3月14日をもって最終的な評価結果を決定いたしました。

評価結果は、表紙の「教職大学院の評価ポイント」、「Ⅰ 認証評価結果」、「Ⅱ 基準ごとの概評」で構成されています。

「教職大学院の評価ポイント」は、金沢大学教職大学院（教職実践研究科教職実践高度化専攻）の教育課程、教員組織、施設・設備、そのほか教育研究活動について、評価により見出される特色や大きな問題点について記しています。

「Ⅰ 認証評価結果」は、機構の教職大学院評価基準に適合しているか否かを記しています。適合していない場合は、その理由を付しています。

「Ⅱ 基準ごとの概評」は、基準ごとの評価結果、及び基準ごとの評価により見出される特色や問題点について記しています。

Iで認証評価基準に適合しているにもかかわらず、問題点や改善を要する事項が記載された事項は、今後、是正するような措置を講じることを求めるものです。ただし、このことについて、後日、改善報告書等の提出を求めるものではありません。

以上

添付資料一覧

- 資料 1 金沢大学教職大学院ウェブページ（募集要項）
- 資料 2 欠番
- 資料 3 （非公開）口述試験の評価観点と基準、及び評価点の算出方法
- 資料 4 2024 年度入学者選抜試験関係委員一覧
- 資料 5 金沢大学教職大学院ウェブページ（web）
- 資料 6 金沢大学教職大学院パンフレット
- 資料 7 金沢大学教職大学院広報紙「角間の窓」（web）
- 資料 8 欠番
- 資料 9 石川県職員採用ポータルサイト・教員ページ（web）
- 資料 10 金沢大学大学院教職実践研究科規程
- 資料 11 金沢大学大学院グローバルスタンダード（web）
- 資料 12 省察シート
- 資料 13 欠番
- 資料 14 2024 年度学校実習Ⅰの手引き
- 資料 15 欠番
- 資料 16 2024 年度学校実習Ⅱの手引き
- 資料 17 履修ガイド
- 資料 18 オリエンテーション会次第
- 資料 19 非常時等における緊急登学停止措置に関する要項
- 資料 20 欠番
- 資料 21 Web 実習ノート
- 資料 22 金沢大学大学院教職実践研究科学校実習運営委員会設置要項
- 資料 23 金沢大学教職大学院学校実習運営協議会設置要項
- 資料 24 金沢大学履修規程
- 資料 25 教職実践研究科開講科目の成績評価への疑義申出等手続に関する申合せ
- 資料 26 学校実習評価票（学生用・教員用）
- 資料 27 欠番
- 資料 28 令和4年度金沢大学FD活動報告書
- 資料 29 令和5年度金沢大学FD活動報告書（教職実践研究科のみ）
- 資料 30 2023 年度金沢大学教職大学院フォーラム報告書
- 資料 31 2023 年度金沢大学教職大学院フォーラムチラシ
- 資料 32 授業改善のための学生アンケート
- 資料 33 7期生修了時 修学成果アンケート
- 資料 34 追跡調査（修了生）Google フォーム
- 資料 35 修了1年後 修学成果アンケート結果（追跡調査）
- 資料 36 金沢大学教職大学院修了生のフォローアップ実施要項
- 資料 37 金沢大学人間社会学域学校教育学類・石川県教育委員会連携協議会規約
- 資料 38 金沢大学人間社会学域学校教育学類・石川県教育委員会連携協議会教職大学院運営部会設置要項
- 資料 39 金沢大学教職大学院教育課程連携協議会設置要項
- 資料 40 金沢大学と石川県教育委員会との金沢大学教職大学院に係る連携に関する合意書
- 資料 41 金沢大学における障がいのある学生の修学等の支援に関する規程
- 資料 42 障がい学生支援室（web）
- 資料 43 2023 年度「フォローアップの日」実施報告書
- 資料 44 2023 年度 金沢大学教職大学院フォーラム参加者アンケート（グラフ）
- 資料 45 2023 年度 金沢大学教職大学院フォーラム参加者アンケート（記述）
- 資料 46 学生との面談に関する手順書（教育担当副学長裁定）
- 資料 47 学生相談体制と対応の流れ
- 資料 48 キャリア支援室（web）

- 資料 49 国立大学法人金沢大学ハラスメント防止等に関する規程
- 資料 50 国立大学法人金沢大学ハラスメントの防止・対策に関する指針
- 資料 51 総合相談室 (web)
- 資料 52 保健管理センター (web)
- 資料 53 金沢大学学則
- 資料 54 金沢大学入学料免除及び徴収猶予規程
- 資料 55 金沢大学授業料免除及び徴収猶予規程
- 資料 56 金沢大学授業料免除等選考基準細則
- 資料 57 金沢大学学則第 76 条第 2 項に定める授業料の免除に関する申合せ
- 資料 58 金沢大学長期履修の取扱いに関する規程
- 資料 59 施設平面図 (講義室・院生室・リフレッシュルーム)
- 資料 60 金沢大学大学院学則
- 資料 61 金沢大学大学院教職実践研究科会議細則
- 資料 62 教職実践研究科における授業内容及び指導教員の方針について (申合せ)
- 資料 63 教職実践研究科の組織体制
- 資料 64 令和 5 年度 教務・FD 委員会 委員名簿・開催状況
- 資料 65 金沢大学大学院教職実践研究科実務家教員の採用・昇任選考に関する申合せ
- 資料 66 国立大学法人金沢大学教育職員人事規程
- 資料 67 国立大学法人金沢大学教員選考基準
- 資料 68 国立大学法人金沢大学教育職員の採用・昇任に係る選考手続きに関する規程
- 資料 69 国立大学法人金沢大学教育職員の採用・昇任に係る選考手続きに関する運用方針
- 資料 70 国立大学法人金沢大学人間社会研究域教員選考細則
- 資料 71 国立大学法人金沢大学人間社会研究域教員採用選考内規
- 資料 72 国立大学法人金沢大学人間社会研究域教員昇任選考内規
- 資料 73 人間社会研究域学校教育系における教員選考手続きに関する申合せ
- 資料 74 金沢大学大学院教職実践研究科教員選考内規
- 資料 75 指導教員の決定について
- 資料 76 欠番
- 資料 77 欠番
- 資料 78 部局の未来ビジョン (令和 5 年度時点)
- 資料 79 2023 年度北陸 ESD 推進コンソーシアム成果報告書
- 資料 80 令和 6 年能登半島地震金沢大学合同調査チーム KUD (web)
- 資料 81 能登里山里海未来創造センター組織図
- 資料 82 教員配置計画・主要研究課題グループ
- 資料 83 令和 5 年度学校教育学類・教職大学院・附属学校園研究推進委員会活動報告書
- 資料 84 「附属学校コラボレーション推進委員会 プロジェクト HESO」
- 資料 85 令和 5 年度研究紀要 (附属中学校)
- 資料 86 令和 5 年度研究紀要 (附属特別支援学校)
- 資料 87 オープン・ラボ
- 資料 88 富山大学大学院教職実践開発研究科ウェブページ
- 資料 89 金沢大学人間社会系事務部組織図
- 資料 90 令和 3 年大学基準協会点検・評価報告書
- 資料 91 自己点検評価報告書
- 資料 92 欠番
- 資料 93 令和 5 年度金沢大学教職大学院運営部会議事次第
- 資料 94 令和 5 年度教育課程連携協議会議事録
- 資料 95 金沢大学大学院教職実践研究科実践研究報告書 (2023 年度)
- 資料 96 SD 研修体系図
- 資料 97 国立大学法人金沢大学自己点検評価規程
- 資料 98 KUGS サポートネットワーク (web)

- 資料 99 金沢大学 KUGS サポートネットワーク設置要項
- 資料 100 R6 学卒院生教採対応事前指導について
- 資料 101 2023 年 スウェーデン教育研修プログラム説明会資料
- 資料 102 金沢大学家計急変に関する緊急学生支援金貸与実施要項
- 資料 103 「金沢大学未来ビジョン『志』」自己点検評価書
- 資料 104 部局における自己点検評価実施指針
- 資料 105 令和 5 年度予算配分・執行状況
- 資料 106 学習マネジメントシステム (LMS)
- 資料 107 令和 5 年度附属中学校公開研究会 (web)
- 資料 108 教育・ひとづくり WG 活動ポスター
- 資料 109 能登半島地震に伴う避難所及び被災地での子どもの居場所づくり支援の状況
〔追加資料〕
- 資料 110 年度ごとの現職教員学生の校種の推移
- 資料 111 「総合科目」におけるグループ編成の例
- 資料 112 金沢大学学生便覧 2024
- 資料 113 ownCloud スクリーンショット
- 資料 114 R5 学校実習運営委員会_議事記録
- 資料 115 R5 学校実習運営協議会_開催概要
- 資料 116 R5 科目別成績分布表
- 資料 117 実践カンファレンス研究概要レジュメ
- 資料 118 若手教員早期育成プログラム
- 資料 119 学校実習 I (附属学校園 院生居室)
- 資料 120 第 5 回とみけん案内
- 資料 121 富山大学との連携に関する打ち合わせ
- 資料 122 富山大学教職大学院との相互授業参観 (アンケート)
- 資料 123 一般入試志願者の内訳と学内進学者の割合
- 資料 124 先進的教育科目群
- 資料 125 R6 時間割表
- 資料 126 省察シート